

藤田医科大学外部評価委員会

日時： 2023 年 2 月 13 日（月） 10：30～11：30

場所： 藤田医科大学 大学 1 号館 B1 会議室

出席者：外部委員 日本福祉大学 副学長 中村 信次
監査法人東海会計社 代表社員 牧原 徳充
豊明市 行政経営部長 小串 真美
豊川青山病院 院長 松井 俊和
藤田医科大学 事務局長 久保田 信
総務部副部長 中井 英貴
総務部学事課長 眞崎 綾子
総務部学事課係長 小山 沙都子

次第

1. 藤田医科大学自己点検評価体制図について
2. 2021 年度藤田医科大学自己点検・評価報告書の確認

外部委員からの指摘項目

該当箇所	指摘概要とそれに対する対応
第 1 章	理念・目標
P. 9	<指摘①> 現在、ホームページにおいて教育研究上の目的又は教育目標を公表している、とのことだが、藤田医科大学は、新型コロナウイルス感染症に対しクルーズ船ダイヤモンドプリンセス号への対応など、社会のニーズに対し率先して問題解決にあたる姿勢を示している。このことは医療人として社会に貢献するという見学の理念の実践を大学全体で学生や社会に示すことであり、高く評価できる。また、その社会的活動の結果により、THE アジア大学サミットの招聘に至った事実も示すべきである。 <指摘②> 大学の理念やビジョン達成に向けての取組みについて、教職員及び学生に対してシラバスや学生ポータルサイトにおいて周知されているとのことだが、学生に対しては意識的に周知させる必要がある。 本学からの追加説明： 本学では災害への取組みを重視しており、2025 年ビジョンにも織り込んでいる。また、大規模災害に備えて、三重大学・浜松医科大学との連携協定も締結している。また、学生への周知については、学生全員の防災士資格取得による実際の取り組みを通じて、学生に本学の理念や行動計画を周知させている。

第2章	内部質保証
P. 15	<指摘①> 藤田医科大学の課題として、基幹災害拠点病院を有する大学として、詳細な防災マニュアルは公開されており評価できるが、大学自身のBCPについてはホームページなどで見つけることができない。大学として動いているのであれば、その進捗状況を内部質保証の部分に記載してはどうか。 <指摘②> 認証評価の際に、厳しく指摘されるのは2章「内部質保証」と5章「学生の受け入れ」である。藤田医科大学における体制は整っているが、ホームページ上での報告資料タイミングが毎年ばらついているため、確定した方がよい。また、活動予定がどのように遂行され、どのようにアクションが取られるのかを説明できるようにするとよい。 また、今の検証サイクル上、点検評価結果に対する改善点の織り込みが2年後となる。PDCAが2年に渡ることは問題ないと思うが、方針に基づき2年のサイクルで改善を継続している旨を記載すべきである。
第3章	教育研究組織
P. 19	<指摘①> 問題点に記載されている、迅速に必要な組織に姿を変えることをためらわない必要性について、藤田学園ビジョンでもあるように国際的な視野を持つ医療人の養成のため、多くの海外の大学とMOUを締結し、学生・教員の交流を図ってきた。しかし、新型コロナウイルス感染の蔓延に伴い活動が困難になっている。近い将来このような状態から改善したとき、速やかに交流を再開し、蔓延時に培ってきた遠隔での交流方法なども駆使しさらに連携を深めるシステムの構築も行う必要がある。 また、国際交流だけでなく、国内の大学交流・地域連携・産学連携なども藤田学園の特徴でもあり、優れた点でもあるため、報告書に記載すべきである。研究に関しては、科研費などの外部資金獲得状況やそのための支援システムなど評価すべき点がある。 なお、この報告書では、学部・大学院での教育に関してはよく述べられているが、大学全体で行う学部横断事項の記載が不十分のように見える。 本学からの追加説明： 感染蔓延中も、本学では海外MOU校とオンラインスクールなどを実施し、連携体制を継続することができたため、活動再開をスムーズに行える連携体制が整っている。また、自治体に対しても、出張講義を通じて連携体制を崩すことがなかった。このような活動や連携体制社会連携活動実績について、報告書内に詳細を追記する。

	<指摘②> 豊明市としては、重層的支援体制整備事業を推進しており、子育て・障がい・高齢・生活困窮といった分野別の支援体制では対応しきれないような“地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズ”に対応する包括的な支援体制を構築する取り組みを進めている。その活動に大学からの支援を期待する。 本学からの追加説明： 既に本学では、まちかど保健室など地域に根付いた取組みを実施しているが、新たな活動を支援できるように検討を進める。
第4章	教育課程・学習成果
P. 44	<指摘①> アセスメンターについて、学生の科目ごとの達成の自己評価、DP ごとの自己評価、DP ごとの GPA の関係性を使ってポリシー・カリキュラム・授業内容の見直しを行い、その結果でどのように学生が成長したのか示すことができれば素晴らしい仕組みとなる。
P. 54	<指摘②> 保健学研究科修了課程のシラバスで一部の科目に担当教員が指名されていない。教育の質保証には必要なところであり、改善が求められる。
P. 54	<指摘③> 開学以来継続して行われ多職種協働を目標としたカリキュラムが実施され絶えず改善されていることは評価できる。さらに防災をテーマに全学生が取り組む企画が加えられたことは医療人としての多職種協働のみならず、社会の一員として「社会の共生」に向け、一段進化したものと考えられ高く評価される。
第5章	学生の受け入れ
P. 67	<指摘①> 問題点のなかで、医学部の適正基準値 1.0 の達成は困難な状況にある、と記載されているが、「できなくて当たり前」のように記載するよりも「困難な点はあるものの、本学の課程を修了し、卒業した者の 99%は医師として社会に貢献している」のように前向きに記載してはどうか。
第6章	教員・教員組織
P. 73	<指摘①> FD は教育だけでなく、研究・倫理に関する項目がある旨を追加すべきである。 <指摘②> 大学院の教員は、兼務して従事する者が多く、必要なレベルの教員が十分に確保されているのか懸念される。